

中世～近世
「時代のうねりの中で」編ポイント紹介は
こちらへ▶▶▶飛鳥-奈良-京都連携協議会
歴史街道推進協議会

本マップ作製の狙い

本マップは、歴史街道メインルートの一部である飛鳥-奈良-京都地域の魅力を可視化して、地域の歴史を時間(=縦軸)とエリア(=横軸)で捉え、時代と地域に横断を刺す歴史の繋がりの面白さを味わっていただくという「歴史・文化の新しい楽しみ方」を提案し、実際に現場を巡ってもらう「きっかけ」となることを狙いとします。

【つながり発見!】

歴史の繋がりを、各スポットの横に【つながり】で表記しています。さて、どんな繋がりがあるのか、ぜひお楽しみください。

歴史街道とは

歴史街道とは、日本の歴史文化を体感できるルートです。

歴史街道には、伊勢から飛鳥、奈良、京都、大阪、神戸を時代のながれにそって結ぶ約300キロの**メインルート**と世界文化遺産などの貴重な**歴史文化資源**や豊かな自然を地域のテーマにそってむずぶ3つの**ネットワーク**があります。

歴史街道HP



年表

- 鎌倉時代 1185 ● 源頼朝に守護・地頭を設置する権利を認められる
- 1192 ● 源頼朝、征夷大將軍に就任
- 1232 ● 御成敗目録制定(北条泰時)
- 1274 ● 文永の役(ペリヤハン)
- 1297 ● 北条の徳政令
- 1333 ● 鎌倉幕府滅亡
- 1334 ● 建武の新政
- 室町時代 1336 ● 建武式目制定
- 南北朝時代へ
- 1338 ● 足利尊氏、征夷大將軍に就任
- 1392 ● 足利義満、南北朝統一
- 1397 ● 足利義満、鹿苑寺金閣造営
- 1467 ● 応仁の乱はじまる
- 1485 ● 山城の国一揆
- 1543 ● 鉄砲伝来
- 1549 ● キリスト教伝来
- 1560 ● 桶狭間の戦い
- 1568 ● 姉川の戦い
- 1571 ● 比叡山焼き討ち
- 安土桃山時代 1573 ● 室町幕府滅亡
- 1575 ● 長篠の合戦
- 1576 ● 安土城築城
- 1582 ● 本能寺の変
- 山崎の合戦
- 太閤検地
- 1583 ● 大坂城築城
- 1587 ● パテレン追放令
- 1592 ● 文祿の役
- 1597 ● 慶長の役
- 1600 ● 関ヶ原の戦い
- 江戸時代 1603 ● 徳川家康、征夷大將軍に就任
- 1612 ● キリスト教禁教令
- 1614 ● 大坂冬の陣
- 1615 ● 大坂夏の陣
- 武家諸法度制定
- 禁中並公家諸法度制定
- 1635 ● 武家諸法度制定(参勤交代制度化)
- 1641 ● オランダ商館を出島(長崎)に移す
- 元禄文化が隆盛
- 1716 ● 享保の改革(徳川吉宗)
- 1774 ● 解体新書(杉田玄白)
- 1837 ● 大塩平八郎の乱
- 1838 ● 通塾開校
- 1853 ● ペリー来航
- 1854 ● 日米和親条約
- 1858 ● 日米修好通商条約
- 安政の大獄はじまる
- 1860 ● 桜田門外の変
- 1862 ● 生麦事件
- 1863 ● 下関事件
- 薩英戦争
- 1866 ● 薩長同盟
- 1867 ● 大政奉還
- 王政復古の大号令



奈良～平安時代 710年～

1 興福寺【つながり 3 10 13 14】

興福寺は藤原朝の興隆とつながりから強大な勢力をもち、大乗院や一条院などの多くの寺院が建てられた。また南都仏教における学問の中心寺院でもあり、ここで学んだ僧侶は上野原に法相宗を創始し、興福寺のみなす浄土宗や海住山寺の再興にも功があった。

3 浄瑠璃寺(九体阿彌陀像)【つながり 11】

中尊は来迎印を結び、残りは弥陀定印を結ぶ。前者は死者を浄土に導く如来の利益を、後者は信者の受難を救済する。現在の浄瑠璃寺の聖観音像や中尊を除く阿彌陀像建立を主導した意匠は興福寺一乗院の僧であり、浄瑠璃寺を一乗院の祈願所とした。

鎌倉時代 1185年～

5 高倉神社【つながり 5】

以仁王を祭神の1柱とし、境内には宮内庁管理の以仁王の墓所がある。後白河天皇の第2皇子の高倉宮(仁王)は、平家討伐を企てて失敗、追手より逃げた際に矢に当たり落命した。

7 正法寺【つながり 2 9 30】

建久2年(1191)創建。志水家の菩提所。後奈良天皇の勸願寺。志水家出身のおおの方(徳川家康の側室)となり、初代尾張藩主・義直を生んだため、同藩の庇護を受け発展した。法堂には、石清水八幡宮の八角堂にあった丈六の阿彌陀如来坐像が安置されている。

9 八角堂【つながり 2 7】

鎌倉時代、順徳天皇の発願により建立。阿彌陀如来を本尊とする。慶長12年(1607)豊臣秀頼が再建。もとは石清水八幡宮境内の西谷にあったが、神分難により西車坂古墳後方に移築。阿彌陀如来坐像は現在、正法寺法堂に安置されている。

11 善法律寺【つながり 2】

鎌倉時代、石清水八幡宮の校校・善法寺宮清が自邸を寄進し建立。宮清の曾孫・良子が室町幕府3代将軍・足利義満の生母となる。将軍家と関係が深い。神分難の際には、八幡八幡像をはじめ、石清水八幡宮で祀られていた複数の仏像が当寺に移築された。

室町時代 1336年～

13 神童寺(本堂、蔵王権立像)【つながり 11】

「大乗院寺社事記」の文明11年(1479)の記事には、興福寺一乗院の祈願所の一つであることが記されている。現在本堂が建立されたが、興福寺の支援があったと考えられる。修験道の主尊である蔵王権現を本尊とし、現在の本尊像も本堂と同じ頃の建立。

15 水度神社本殿【つながり 2】

本殿は1448年に造営の城陽市に現存する最古の建築(重要文化財)。全国で6番目に古い鉄造。現在も行われている秋祭りの神事と神楽の関連が考えられる(市指定文化財)。石清水八幡宮からいくつかの寺を経た後、室町時代後期に伝来したとされる大般若經(歴代聖賢集附録)を所蔵している。

17 鹿背山城【つながり 1 23】

「大乗院寺社事記」によれば、文明11年、興福寺の成身院が移入した。その後、松永正久が信貴山城を拠点として大和に侵入し、奈良に多田山城を築城。この間、興福寺の支援があったと考えられる。鹿背山城も松永が手に入れたものと考えられる。

19 橘寺(木造聖徳太子35才坐像)

聖徳太子建立した大寺の一つで太子が誕生した場所と言われる。現在の本堂(太子殿)は、1864年に再建されたもの。この本堂の木造聖徳太子35才坐像(重文)は、太子35歳の御尊像を讃じた時の姿で、僧井仙師の御殿(宗と別人)によって1515年に制作された。

21 龍王山城【つながり 23】

天文(1532～1555)年間、橿原市の十市周辺を本拠としていた十市遠忠が山城として拠点を築いた。永禄(1558～1570)年間に、松永正久の支配するところとなり、改築されている。城は南・北・西の三つの峰に築かれ、別々の城が一つの城を形作る連峰式山城(別城一城)の構造。

23 多聞城 松永久秀

多聞城は、永禄2(1559)年から翌年にかけて、松永久秀が興福寺勢力の抑えとして築いた。東大寺や興福寺を見下す場所にあったことから、大和支配の戦略的拠点に選定された。松永久秀は大和に侵入後、多聞山城を本拠とし、西の拠点を信貴山城、東の拠点を龍王山城、北の拠点を鹿背山城とする四城体制を構築したと考えられている。

8 東大寺(大仏殿)【つながり 23 27】

松永・三好連合軍と三好三人衆・僧井連合軍が争った「東大寺大仏殿の戦い」。永禄10(1567)年10月10日には、戦乱により東大寺大仏殿が焼失し、大仏殿の首も落ちた。東部を失った大仏殿は、山田道安の手によって修復がなされた。

安土桃山時代 1573年～

26 郡山城 豊臣秀長

豊臣秀長による普請で城郭の大部分が完成。郡山城築城の際に社寺の石材を集めた伝わる。郡山城を核とし、外延部に高取城と秋山城を配する。

1 興福寺、46 薬師寺【つながり 26】

高取城【つながり 26】

秀長の命で、本武蔵守が入城する。

28 今井町 29 奈良町、堺町【つながり 26】

商人が郡山城内下に集結してくる。

十津川村【つながり 23】

秀長の亡き後、跡を継いだ秀保が国治に訪れ、亡くなる。(大和豊臣家の断絶)

28 今井町【つながり 12 23】

今井町は、中世末期に寺町として成立し、江戸中期までに南大和地区における商業の中心地として発展した。原・土居で開かれた保存地区には、寺内町形成から郡町へ発展する市街地形成が現存している。豊臣秀長の家来である本多利久が、今井町にある徳光寺を庇護して復興したという伝説が残っている。

31 正伝永源院 織田長益(有楽斎)【つながり 6 32 33】

織田長益(有楽斎)は、安土桃山時代から江戸時代初期の豪商・茶人。織田信長の弟、利休十哲の一人。関ヶ原の戦いでは徳川家康に付き、その功績により大和国内に3万石を与えられた。長益系織田家嫡流初代。晩年には、京都の建仁寺の塔頭の一つである「正伝院」を再興し、茶室「知庵」を建造した(国宝・復元)。

東京都千代田区有楽町

有楽町という町名は、織田長益(有楽斎)の号「有楽」に由来し、茶人としても名を馳せた有楽は関ヶ原の戦いのあと、徳川方に属し、数寄屋橋門の周辺に屋敷を拝領し、その屋敷跡が有楽町と呼ばれていたことから、明治時代に「有楽町」と名づけられたとの説がある。

江戸時代 1603年～

34 狩尾神社【つながり 2 7】

石清水八幡宮の飛地境内に鎮座する神社。現在の本殿は慶長6年(1601)、柳川藩の藩政による石清水八幡宮の再興に伴って再建された。石清水八幡宮に現存する最古の社殿。令和7年(2025)4月、修理が完了し古い彩色を復元された。

36 龍田城跡(龍田陣屋跡)【つながり 37】

中世、興福寺一乗院の僧侶であった龍田氏の居館跡を龍田氏の初代藩主・片桐且元が継承したとみられ、関ヶ原の戦いの後の慶長6(1601)年に平野郡に2万4千石を拝領して築城した。その後、豊後いだし利利利の代に完成したとされている。

38 荒見神社【つながり 37】

本殿は檜皮葺の三間社流造で、市内最大規模の神社建築(重要文化財)。天満神社本殿と共通する意匠を持つ。一門社流造の御霊社は京都府登録文化財。神門は本瓦葺の一間廂式。透母は枝瓦葺。中門は檜皮葺の一間廂式で近世の寺社建築を表す(市指定文化財)。

40 奈良奉行所跡(奈良監獄)【つながり 41】

江戸時代、奈良の町は幕府の直轄地であり、その幕府による行政の中心だったのが、奈良奉行所(現・奈良女子大学敷地内)である。「奈良奉行所」を前身として、1871年(明治4年)「奈良監獄所」が設立。

42 松花堂庭園・美術館【つながり 2】

石清水八幡宮の社僧で「寛永の三筆」の一人、松花堂昭暈ゆかりの庭園。昭暈が移らした草庵・松花堂と泉坊書院が明治の山中より移築されている。美術館では昭暈ゆかりの資料などを展示している。※美術館・松花堂と泉坊書院は令和7年現在修理中。

44 圓福寺(達磨堂)【つながり 2】

天明3年(1783)、所縁和尚が石清水八幡宮別当・田中より大和郡龍田村の達磨堂を譲り受け、南山院の創始者・浅井周常より土地の寄進を受け建立。年2回行われる万人講では、日本最古とも伝わる寺宝・達磨大師坐像(重要文化財)が特別公開される。

【つながり 7 9】

2 史跡 石清水八幡宮境内 11 15 24 44】

男山に鎮座する石清水八幡宮の境内。かつては多くの坊が建ち並び、創建から明治時代の神仏分離まで、神仏習合の宮寺としての景観を保っていた。現在はその歴史を伝える石清水八幡宮の遺構が多く残る。

4 円成寺(大日如来像)【つながり 8】

大日如来像(国宝)は、台座内扉から鎌倉新様式を切り開いた、運慶の初期の作と知る記念館の仏像。大日如来は密教における根本仏。

6 建仁寺【つながり 31 35】

建仁寺は、建仁2年(1202年)に、將軍源頼朝が寺域を寄進し、宋西禪師を開山として、宋国百丈山を模して建立された。京都最古の禪寺である。開山西禪師は、日本における茶の文化を広めたことで「茶祖」として知られている。

8 東大寺南大門(金剛力士像)【つながり 4】

運慶は「大日如来坐像」を手がけた後、東大寺の再建に参画し、「金剛力士立像」を快慶とともに制作。「金剛力士立像」は運慶の代表作であり、日本彫刻史上の傑作とされている。

10 海住山寺(五重塔)(宝珠台)【つながり 1 12】

鎌倉時代に海住山寺を復興した解説上人は鎌倉時代前期に活躍した僧で、興福寺に入って学問として将来を嘱望されたが、やがて安置所へ移り、のちに海住山寺に住んだ。また、鎌倉時代に製作された宝珠台の片断には石清水八幡宮の境内が描かれている。

12 西本願寺【つながり 18 23】

親鸞聖人が開かれた浄土真宗を伝える本願寺は、世界文化遺産にも登録されている。聖人自筆の書状や影響を受けた書状、桃山文化を彷彿とさせる飛雲閣や対面所、白雲院などの国宝や重要文化財など宗教的にも歴史的にも価値の高い重要な文化財が数多くあり。

14 今西家書院【つながり 1】

室町時代の貴重な遺構で初期の書院様式を残す。かつて、興福寺大乗院初祖智恵院氏の住宅だったものだが、13(1624)年から今西家の所有となった。江戸時代に改築済み。奈良市に位置する。

16 吉田寺(多宝塔)(奉安殿)

吉田寺の多宝塔は、本尊丈六阿彌陀如来像を刻まれた果樹の切り株の跡に建立されたと伝えられている。寛正4(1463)年に創建され、国の重要文化財に指定されている。重要文化財である本尊丈六阿彌陀如来像は境内の果樹によって造像され、奉安殿に安置されている。

18 円成寺(絹本著色方便法師尊像)【つながり 12】

円成寺は当初は真言宗の寺院であり室町時代後期に浄土真宗になったとされる。尊像の裏書には「大和国奈良県大和郡(花押)」とあり、通知の息子で本願寺第3代門主を務めた大友親朝の名が記されている。

20 法隆寺(弘法大師坐像)

法隆寺は世界最古の木造建築で、1993年に日本初の世界文化遺産に登録された。弘法大師坐像(重文)は、護国寺に安置され、1375年に楠井仙師の尊像(宗)により制作されたことが像の底に記されている。毎月28日の護摩供養の日には拝観することができ。

22 信貴山城【つながり 23】

戦国武将・松永久秀は、三好長慶の命令を受けて大和国へ侵入する。信貴山城に入り、大規模な改築・拡張を行い、4層の天守櫓を築いた。元正5(1577)年、落城。松永久秀は天守に火をかけ、城と運命をともにした。

24 二条城 25 筒井城 26 郡山城

二条城は多聞城の主殿を流用。筒井城、郡山城は多聞城の石材を流用。

27 蔵輪寺【つながり 8】

山田道安は、戦国時代の大和国山田郡掛城の城主であり、武人画家。焼け落ちた東大寺大仏殿の修復に携わった。天理市山田町の蔵輪寺に葬られている。

伊賀上野城【つながり 26】

秀長の郡山入城に伴い、国許となった筒井定次が入城する。(1585年)筒井定次のもとには、秀長家臣であった藤堂高虎が入城する。(1608年)

秋山城(宇陀松山城)【つながり 26】

秀長に宇陀郡を渡された伊藤藤次郎が秋山城を復興する。

郡山城内下町

秀長によって城内下町復興政策が実行される。

30 大納言塚【つながり 26】

秀長が葬られた場所。当初は大光院が管理していたが、藤堂高虎によって、大光院が火災で焼失後、東光寺の(ちの春岳院)が管理を引き継ぐ。

高野山【つながり 23】

秀保の後に郡山山城を継いだ増田長盛は、関ヶ原の戦いで西軍に与し高野山に追放される。

28 今井町伝統的建造物群

徳光寺本堂・今井町の中心となった寺院。建物は江戸時代に再建された浄土真宗本堂。後の改修はあるが当時の特徴を残した建物である。今井まちや館・今井町にある大型町家の基本構造を持つ建物。今井まちなみ交流センター「華蔵」(はなぞう)は(はなぞう)・奈良県の指定文化財。1903年高野山教育博物館として建設。現在は資料館。

32 慶田寺【つながり 31】

創建は文明2(1470)年といわれ、織田長益(有楽斎)ゆかりの寺で、境内には成徳庵(後に支村庵)織田家の庶次藩主の墓がある菩提寺として知られる。織田長益の四男・長盛は、元禄元(1615)年、父・長益が大和国内で1万石を分与され、大和国成徳藩初代藩主となる。

33 専行院【つながり 31】

天文12(1584)年にこの地の土豪・堀本龍寛が松山山行院を開基。織田長益の五男・前長が、1615年、長益から大和国内で1万石を分与され、大和国堀本藩初代藩主となって入部以来、その菩提寺となる。

35 榎原神宮「文華殿」【つながり 31】

織田長益の五男・前長が初代藩主とする大和国堀本藩は、始めは大和・次いで郡山・次いで松山・松山藩に遷す。榎原神宮はのちに榎本氏に使用され、昭和40(1965)年に同様の学校に併せて榎原神宮へ移設された。「文華殿」として国の重要文化財に指定されている。

37 平太池【つながり 33】

龍田陣屋は堀により内部と外部に分かれており、内部は外部の南側寄りに造られていたとされている。内部を囲む堀のうちの一部が現在も「平太池」として残っている。

39 天満神社【つながり 38】

市川辺の産土神で、山麓の小高い場所に鎮座する。本殿は小規模ながらも本格的な造りの一門社流造で、荒見神社本殿と共通する意匠を持ち、郡部意匠に近い時期に建立されたと考えられる(京都府指定文化財)。

41 鹿苑【つながり 40】

現在、鹿苑で行われている鹿の角切りは、奈良奉行によって行われていた。

43 旦原神社【つながり 9】

高倉神社に祀られている高倉宮(仁王)を祭神としている。本殿は華やかな彩色や装飾が施された柿葺の二門社流造で、寛文12年(1672)の棟札があり、年代の判明している府内の二門社流造の本殿で最も古い建造物である(京都府指定文化財)。

45 三縁寺大門【つながり 6】

形式は一門一戸向門で、元は神宮寺が現在は横瓦葺になっている。明治18年(1885年)に建仁寺にあっては護国院開山堂から移築された(市指定文化財)。